

授業科目 小児発声発語障害学Ⅰ

【担当教員名】 大湊 麗		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎				
【概要・一般目標：G10】 器質性・機能的構音障害に関する症状や発生メカニズムを知り、必要な検査・診断・評価法や情報収集について学習する。個々の症状にあった指導計画や訓練について理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的構音障害に関する基礎知識を理解することができる。 2. 器質性構音障害に関する基礎知識を理解することができる。 3. 構音障害の検査・評価・診断を理解することができる。 4. 構音障害の治療を理解することができる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	機能的構音障害の概念、構音の発達の過程			1	講義
2	発声発語器官の形態と機能、音声表記法			1	講義
3	発声・発語器官の形態と機能の検査法			3	講義
4	機能的構音障害の定義、種類と原因			1	講義
5	必要な情報の種類と収集法			1	講義
6	機能的構音障害の検査法と診断・評価			3	講義
7	発達・心理・社会的側面の検査			3	講義
8	器質性構音障害の疾患と原因			2	講義
9	器質性構音障害に関する発語器官の形態と機能の検査法			2、3	講義
10	口蓋裂の概要、口蓋裂言語の特徴			2	講義
11	口蓋裂言語の検査法、評価			3	講義
12	言語治療法（対症療法、長期系統的治療計画、術前術後の母親指導、言語管理）			4	講義
13	粘膜下口蓋裂、先天性鼻咽腔閉鎖不全症の言語障害			4	講義
14	口腔癌切除後の言語障害の検査法および留意点			4	講義
15	まとめ			1～4	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		改訂 機能的構音障害（言語聴覚シリーズ7）	本間慎治	建帛社	2007・2,500円＋税
		器質性構音障害（言語聴覚療法シリーズ8）	斉藤 裕恵	建帛社	2002・2,600円＋税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 定期試験、小テスト、レポート、出席点			【履修上の留意点】		